

# 関西眼疾患研究会 平成23年度事業報告書

平成23年1月1日より平成23年12月31日まで

本年の事業については、平成23年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

## 1. 会員へ向けての定期講演会

1. 1月5日(水) 第331回 関西眼疾患研究会特別講演  
川上浩司(京都大学大学院医学研究科薬剤疫学)  
「医薬品・医療機器の開発と適正使用の未来」
2. 1月12日(水) 第332回 関西眼疾患研究会特別講演  
八木田和弘(京都府立医科大学神経生理学) 「幹細胞と体内時計」
3. 6月1日(水) 第333回 関西眼疾患研究会特別講演  
白木邦彦(大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学)  
「光干渉断層計・眼底自発蛍光の役立った眼底疾患症例集」
4. 6月29日(水) 第334回 関西眼疾患研究会特別講演  
栗本拓治(大阪医科大学眼科学) 「眼炎症による視神経再生」  
高橋寛二(関西医科大学眼科学)  
「病理からみた滲出型加齢黄斑変性の病態と治療の考え方」
5. 8月31日(水) 第335回 関西眼疾患研究会特別講演  
Dr. EunDuck Kay (USC Keck School of Medicine)  
「IL-1b: The initial switch of the FGF-2-mediated endothelial mesenchymal transformation」
6. 9月7日(水) 第336回 関西眼疾患研究会特別講演  
林皓三郎(Lab. of Immunology, NEI, N. I. H., USA)  
「The enigma of HSV and HCNMV」
7. 9月21日(水) 第337回 関西眼疾患研究会特別講演  
Dr. Nancy Joyce (Harvard Medical School )  
「Perspectives on Corneal Endothelial Proliferation」
8. 10月12日(水) 第338回 関西眼疾患研究会特別講演  
中田 勝己 先生(福井県健康福祉部健康増進課) 「厚生労働行政の経験から」
9. 10月19日(水) 第339回 関西眼疾患研究会特別講演  
鳥羽 研二 先生(国立長寿医療研究センター) 「frailtyの考え方」

## 2. 海外研究者との情報交換会

### 1. 1月14日（金） Sally Atherton

- ・ヘルペスウイルスの感染が角膜など前眼部に限局して網膜など後眼部に直接波及しないことを動物モデルを用いた詳細な研究成果で示された。網膜への波及は神経節から直接おこるが、角膜からは波及しえないことは臨床的に理解しやすいことである半面、メカニズムについては明らかでなく、非常に興味深いテーマであった。情報交換会では眼科研究についての思いをお話になり、また若い研究者への温かい励ましをいただき、大変有意義であった。

### 2. 2月21日（月） James Zieske

- ・角膜実質再生の可能性とコラーゲン産生に関与するビタミンCの効果、またTGFbetaのうち、TGFbeta3の関与について討論した。また現在のSchepens Eye Research Instituteの現状、角膜研究の流れをお聞きした。角膜実質創傷治癒および実質再生について基礎的な研究成果を学ぶことができ非常に有意義な会であった。

### 3. 5月23日（月） Justyn Regini, Andrew Quantock, Barbara Pierscienc

- ・Prof. Pierscienc, Dr. Regini, Prof. Quantockは今回スプリング8で研究を施行し、その内容について木下教授・小泉教授とともに今後の共同研究などについて話し合いを行った。Prof. Piersciencは現在、自分のラボにてサイトカインの網羅的解析を施行しており、ラット糖尿病モデル硝子体を解析したところ大変興味深い結果が出たため（レンズに関連する因子）、人のサンプルを使用してその解析を行いたいとのことを提案された。このことについて今後さらに詳細を検討し当院で施行しているサンプル採取の一部を検査する共同研究計画を立ち上げることになった。まずは当院にて海外研究期間との共同研究計画を倫理委員会を通し立ち上げることとなった。このように新規の共同研究を立ち上げるという大変有意義な交換会であった。

### 4. 8月30日（火） Enduck Kay

- ・現在京都府立医科大学の研究チームが行っている角膜内皮研究をさらに推進させるために有意義なディスカッションを行った。また、共同研究に向けての具体的な計画についても話し合った。角膜内皮分野の研究の最新動向を学ぶことができた有意義な会であった。

### 3. オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）

#### 1. 第 37 回京都眼科フォーラム

平成 23 年 2 月 26 日（土） テーマ：『高齢者の眼疾患を考える』

中澤徹（東北大学）「重症緑内障と眼循環」

高橋寛二（関西医科大学）「加齢黄斑変性の病態と最新治療」

大平明弘（島根大学）「酸化ストレスに関連する眼疾患」

- ・臨床および研究分野において独自の見識を確立された日本を代表する先生方に加齢による眼疾患の問題点をご講演いただき、残された難病である加齢による慢性疾患への理解と知識を高めた。

#### 2. 第 38 回京都眼科フォーラム

平成 23 年 7 月 16 日（土） テーマ：『症例から考える眼疾患』

井上幸次（鳥取大学）「角膜疾患の意外な犯人：隠れた微生物をさがせ！」

三宅養三（愛知医科大学）「網膜疾患の診方、考え方」

望月學（東京医科歯科大学）「症例から考えるぶどう膜炎」

中尾雄三（近畿大学）「最近注目の視神経疾患 “IgG4 関連視神経症”」

- ・「症例から考える眼疾患」と題して、角膜感染症、網膜疾患、ぶどう膜炎、神経眼科疾患を網羅した超豪華なケーススタディーを企画し、各分野のエキスパートの先生方を招き、講演では選りすぐりの症例を見せていただいた。

#### 4. 眼科診療アップデートセミナー（共催：ファイザー株式会社）

平成 23 年 3 月 5 日（土）～6 日（日）ウェスティン都ホテル京都

3 月 5 日（土）

- 「角膜内皮疾患アップデート」 西田幸二（大阪大学）
- 「アレルギー性眼疾患」 福島敦樹（高知大学）
- 「屈折手術に対する考え方」 木下茂（京都府立医科大学）
- 「硝子体手術の新しい流れ」 小椋祐一郎（名古屋市立大学）
- 「加齢黄斑変性の診断と治療」 湯沢美都子（日本大学駿河台）
- 「小児の眼底疾患」 東範行（国立成育医療研究センター）
- 「白内障手術機器・器具の進歩」 大鹿哲郎（筑波大学）
- 「PEA 手術中の眼圧変化」 永原国宏（聖母眼科医院）
- 「緑内障性視神経症に関連するトピックス」 谷原秀信（熊本大学）
- 「緑内障手術アップデート」 杉山和久（金沢大学）
- 「視野と SD-OCT の一致/不一致」 山本哲也（岐阜大学）
- 「緑内障治療薬、特に合剤の使用方法」 新家真（関東中央病院）

3 月 6 日（日）

- 「複視について」 柏井聡（愛知淑徳大学）
- 「視神経炎の診断と治療」 中尾雄三（近畿大学堺病院）
- 「瞳孔・調節異常」 石川均（北里大学）
- 「新しいぶどう膜炎疾患：CMV 前部ぶどう膜炎」 望月學（東京医科歯科大学）
- 「眼窩腫瘍の治療」 後藤浩（東京医科大学）
- 「硝子体と黄斑」 岸章治（群馬大学）
- 「病的近視とその網膜変化」 吉村長久（京都大学）
- 「周術期の感染制御を考える」 大橋裕一（愛媛大学）
- 「角膜手術アップデート」 天野史郎（東京大学）
- 「コンタクトレンズケアを科学する」 村上晶（順天堂大学）

・各領域のエキスパート 22 名の講師陣を擁し、結膜・角膜・屈折手術・コンタクトレンズ・緑内障・網膜・白内障・神経眼科・ぶどう膜炎。眼腫瘍の臨床診断・治療・疾患概念についてアップデートな考え方を紹介していただいた。

## 5. KPUM Strategy Council

平成 23 年 5 月 21 日（土）ウェスティン都ホテル京都

小森・古泉・丸山・米田 「Retina/ Vitreous Body/Uveitis」

渡辺・稗田 「Oculoplastics/Strabismus/Amblyopia」

森・池田・上野 「Glaucoma」

川崎 「From bench to bed in KPUM」

横井・外園・稲富・上田・小泉・中村・奥村 「Cornea/ Dry Eye/External Diseases」

木下・稗田 「Cataract/Refractive Surgery」

- ・ 京都府立医科大学眼科として研究の方向性を戦略的に検討することを目的として、1st KPUM Strategy Council を開催した。当日は「Retina/ Vitreous Body/Uveitis」、「Oculoplastics/Strabismus/Amblyopia」、「Glaucoma」、「Cornea/ Dry Eye/External Diseases」、「Cataract/Refractive Surgery」のセッションごとに各研究グループが「京都府立医科大学眼科グループの現状」と「世界的な動向」に分けてプレゼンテーションを行い、その後に討論をおこなった。研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、ご自身のアカデミアと企業の両方で研究に従事されたご経験に基づいて包括的なお立場からコメントをいただいた。今後の当教室の研究の発展に直結する有意義な戦略的ミーティングだった。

平成 23 年 12 月 17 日（土）ウェスティン都ホテル京都

戦略的研究会議

モジュレーター：木下

発表者：横井、外園、森、稲富、川崎、稗田、小森、上野、渡辺、古泉・丸山、米田

特別講演 1：ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」の現況（今井浩二郎先生）

特別講演 2：医学基礎研究の未来 個別医療の覚醒（羽室淳爾特任教授）

- ・ 京都府立医科大学眼科として研究の方向性を戦略的に検討することを目的として、2nd KPUM Strategy Council を 23 年 12 月 17 日（土）8 時～12 時にウェスティン都ホテル京都にて開催した。前回の第 1 回で行った各研究グループの研究方向性についての討論結果を元に、今回は研究者単位で、それぞれが優先順位を高く設定している 3 研究課題について「研究の現状」と「世界的な動向」に分けてプレゼンテーションを行い、その後に討論を行った。研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、ご自身のアカデミアと企業の両方で研究に従事されたご経験に基づいて包括的なお立場からコメントをいただいた。また特別講演として、23 年 4 月より厚生労働省研究開発課再生医療推進室に出向されている今井浩二郎先生に「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」の現況」

と題した講演いただいた。我が国の研究から開発への流れの現状を理解できる素晴らしい機会であった。また羽室淳爾特任教授には「医学基礎研究の未来 個別医療の覚醒」と題した講演をいただいた。全体として今後の当教室の研究の発展に直結する有意義な戦略的ミーティングであった。

## 6. 情報提供

- ・定期講演会の記録 DVD を下記関連病院へ回覧した

京都市立病院 京都第二赤十字病院 京都第一赤十字病院 洛西ニュータウン病院  
済生会京都府病院 井出眼科病院 藤枝市立総合病院 国立長寿医療センター病院  
西陣病院 バプテスト眼科クリニック 社会保険京都病院 済生会中津病院  
済生会吹田病院 裕生会みどりが丘病院 町田病院 済生会滋賀県病院  
大津市民病院 琵琶湖大橋病院 京都府立与謝の海病院 公立南丹病院  
明治鍼灸大学附属病院 舞鶴医療センター 舞鶴赤十字病院 綾部市立病院  
市立福知山市民病院 公立山城病院 愛生会山科病院

- ・講演会に参加できなかったが、閲覧希望のある会員に講演 DVD を貸し出した
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した

## 7. 眼科臨床の発展に寄与する活動の支援

留学生支援（平成 23 年 7 月 2 日～8 月 1 日）

### ・Cardiff 大学との交流学生受け入れ活動報告

2009 年より Cardiff 大学より 2 名の短期留学生を 1 か月間京都府立医科大学眼科学教室で受け入れている。2011 年は Ria Chandarana と Gemma Bussey の 2 名を 7 月 2 日～8 月 1 日の 1 か月間眼科学教室にて研修をしていただいた。本大学生との交流に加え、本年度は同志社生命医科学教室の実習および研究に参加していただき有意義な研修をしていただいた。

[眼科臨床研修]

#### 1. 眼科外来見学

患者診療、眼科検査システムを研修していただいた。特に視能訓練師が行っている眼科検査方法について研修し、眼科一般検査に加え緑内障検査、網膜検査、視機能検査などを見学

#### 2. 手術見学

白内障手術、網膜硝子体手術、緑内障手術について見学

#### 3. コンタクトレンズ外来見学

通常の近視矯正に加え円錐角膜や角膜移植後の特殊症例に対するコンタクト処方方法を見学

#### 4. 眼科セミナー参加

眼科セミナー、専門外来カンファレンスに参加

7 月 25 日の角膜カンファレンスで Cardiff 大学及び英国の眼科診療について発表

#### 5. 同志社生命医科学教室見学

本年度は同志社生命医科学教室での実験実習および研究に参加見学

#### 6. ウェットラボ実習参加

豚眼を用いた白内障手術を体験し、眼科手術の原理と技術を体験